

松戸市人口ビジョン・松戸市総合戦略の概要

松戸市人口ビジョン

I 人口動向の分析

(1) 松戸市全体の人口の状況

- ◆松戸市の総人口は市制施行した昭和 18 年は 4 万人であったが、昭和 35 年以降 54 年までは、毎年 1 万人以上の増加がみられ、中でも昭和 44・45 年の両年は 2 万人台の増加。55 年以降は微増傾向で推移し、平成元 (1989) 年に 45 万人を超え、その後も微増。
- ◆年齢構成の特徴として、20 歳未満が少ない、30 歳代後半～40 歳代・65 歳以上が多い。
- ◆昼夜間人口比率 81.6%

(2) 出生・死亡、転入・転出の状況

- ◆松戸市の合計特殊出生率は、平成 25 年 1.36 (平成 24 年 1.30)
- ◆出生数は、平成 26 年 3,823 人

◆15 歳から 24 歳までの若年層は転入超過だが、25 歳から 44 歳のファミリー層が市外に転出する傾向がある。

II 人口の将来展望

(1) 将来人口の推計

- ◆2010 年には 48 万 4 千人の松戸市の総人口が 2040 年に 41 万 4 千人、2060 年に 32 万 2 千人となり、約 16 万人の減少 (社人研 2013 年 3 月推計)。
- ◆生産年齢人口比率は 66%→49%、老年人口比率は 21%→42%に (上記推計)。

(2) 目指すべき将来人口の展望

■目指すべき将来の方向

松戸の持つ魅力、潜在能力をフル活用し、良好な居住環境の整備、経済の活性化により、人口規模を維持していく。

- ・東京近郊でありながら、地方と同水準の出生率
- ・健康寿命の延伸を図り、高齢者も安心して暮らすことができるまでに

■将来人口の展望

2060 年まで、現在の水準である 50 万人程度を維持

- ・合計特殊出生率：2020 年 1.6、2030 年 1.8、2040 年 2.07 (国準拠)
- ・ファミリー層の転入 (社人研推計に追加)
 - 2015-20 年：5 年で 5,000 人、2020-25 年：5 年で 6,000 人
 - 2025-30 年：5 年で 7,000 人、2030-60 年：5 年ごとに 7,500 人
- ・昼夜間人口比率 85%
- ・年齢 3 区分別人口比率 (2010 年→ 2040 年 →2060 年)

年少人口 (0-14 歳)	12%	→	14%	→	15%
生産年齢人口 (15-64 歳)	66%	→	53%	→	54%

松戸市総合戦略

基本目標 I

子育て・教育・文化を軸とした都市ブランドづくり

若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえるとともに、子育て世代にも魅力的な「東京に隣接した子育てしやすいまち」として選ばれるまちづくりを進める。

1 誰もが輝き、安心して結婚、出産、子育てができるまち

- (1) 出会いの機会があり、結婚に夢を持てる
- (2) 若者や女性が活躍できる
- (3) 子育てに夢を持ち、出産に必要な相談や医療環境が整っている
- (4) 乳幼児に必要な医療環境や予防環境が整っている
- (5) 多世代がゆとりある住環境で子育てができる
- (6) 子育てや教育に必要なコストを低減する

(7) 子育てについていつでも相談できる場がある

- (8) 近所に子育てをサポートしてくれる人がいる
- (9) 子育てと仕事を両立することができる
- (10) 子どもと (が) 遊び過ごせる公園や屋内施設が整っている

2 主体的、創造的に子どもが育つまち

- (1) 確かな学力を身に付けることができる
- (2) 子どもの個性に応じて教育を受けることができる
- (3) 子どもが主体的に活動できる場所がある
- (4) 市立高校ならではの教育を受けることができる
- (5) 地域と協働する魅力的な大学がある
- (6) 子どもたちがグローバルな視点をもつ機会がある

3 暮らしている人や訪れる人が日常的に歴史・文化を感じられるまち

- (1) 文化・芸術の活動をできる場や発表機会、鑑賞機会が多くある
- (2) 松戸の歴史を感じられる場と学習機会がある
- (3) 国内・海外からも魅力ある文化・芸術活動がある
- (4) 歴史とおもてなしに支えられた松戸文化が世界に発信される
- (5) 気軽にスポーツを楽しむ文化がある

少子高齢化に対応する、特色ある自立した都市 ～多世代がともにいきいきと暮らすことができるまち～

多極ネットワーク型コンパクトシティ

地域包括ケアシステム

ライフステージの変化に応じた住環境

創造的な働き方改革

基本目標 II

高齢者がいつまでも元気に暮らせるまちづくり

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現し、高齢者がいつまでも元気に暮らすことができるまちづくりを進める。

1 高齢になっても健康で暮らすことができるまち

- (1) 高齢になっても社会活動や仕事ができる
- (2) 毎日の食事や運動を楽しみ、自分の健康状態に関心を持てる
- (3) 年齢を重ねても移動がしやすい環境にある
- (4) 年齢を重ねてもできるだけ自立した生活を送ることができる

2 医療や介護が必要になっても安心して暮らすことができるまち

- (1) 高度な医療を受けることができる医療機関が充実している
- (2) 安心して介護を任せられる施設や人材が充実している
- (3) 住み慣れた地域で自分らしい暮らしができる
- (4) 多世代の家族や地域の支え合いにより地域に暮らす高齢者が見守られている
- (5) 年金や貯蓄が少なくても安心して生活することができる

基本目標 III

まちが再生し、賑わいのあるまちづくり

多様な都市機能が集積する快適で活力ある中心拠点としての強化や、交通利便性を向上させるなどの施策を実施することで、賑わいのあるまちづくりを進める。

1 賑わいのあるまち

- (1) 松戸駅周辺まちづくり基本構想が実現し、中心拠点が強化される
- (2) 鉄道交差駅を中心に、まちに躍動感が感じられる
- (3) ライフスタイルやライフステージにあった魅力的な住まいが見つけやすい
- (4) 新たな道路・街路が計画的に整備される
- (5) どこに暮らしていても、まちまでの移動に困らない
- (6) 公共施設が賑わっている

基本目標 IV

経済が活性化し、安心して働けるようになるまちづくり

本市の魅力である交通の利便性 (東京に隣接) を活かした産業を創出することで雇用を確保し、若者や女性が活躍できるようにするとともに、企業の稼ぐ力を支援する。

1 自分らしく働き、家庭ももてるまち

- (1) 都内などへの通勤が便利である
- (2) 誰もが働くことに喜びを見出し、安定して就労できる
- (3) 女性も男性もワークライフバランスがとれた働き方ができる (経営者の理解)
- (4) クリエイティブに「働く」ことができるスキルやマインドを身につけることができる
- (5) 多世代の支え合いにより女性が活躍できる

2 稼ぐ力をもてるまち

- (1) 商品やサービスのブランド化や PR をサポートしてもらえる
- (2) 起業や経営について相談やサポートしてもらえる
- (3) 商店街に魅力的な商店が集まっている
- (4) 企業が松戸に立地するメリットがある
- (5) クリエイターやアーティストが活躍できる